

知事メッセージ

～未来の子どもたちに引き継ぐ
豊かな環境をめざして～



今、地球温暖化など地球環境全体の持続性に関わる問題への対応が一層緊急性を増してきています。このことについて、多くの科学者が、「社会全体のリスクマネジメントの課題であり、その影響の大きさを考えると一刻も行動を遅らせてはならない」と警鐘を鳴らしています。未来の子どもたちに、自然豊かな環境を引き継ぐためには、現代を生きる私たちが、ただちに行動を起こさなければなりません。

こうした状況を踏まえ、国では、平成18年4月に「第三次環境基本計画」を策定し、「100年後の世代にも伝えられるライフスタイルへの転換」を提案しています。三重県においても、総合計画「県民しあわせプラン」に、「持続可能な循環型社会の創造」を政策の柱として位置づけるとともに、「地球温暖化の防止」や「ごみゼロ社会の実現」などの重点課題に積極的に取り組んでいるところです。

このような中、私たちは、「環境にやさしい三重県庁」をめざし、よりよい環境創造に向けた率先行動として、ISO14001の認証を維持するとともに、グリーン購入や地球温暖化防止などの取組を進めています。

また、「みえ行政経営体系」における県政のマネジメントのペースに「環境マネジメントシステム」を位置づけることで、職員一人ひとりの気づきと行動につなげる「環境マインド」を醸成し、こうした取組が特別なものではなく文化そのもの、言わば「環境文化」となって県庁に根づくようにしていきたいと考えています。

本報告書は、県庁が自ら率先して環境負荷低減に取り組んでいる状況を県民や事業者の皆様方にお知らせするため、環境に関する取組成果として取りまとめたものです。

今回は、編集段階において、今年から環境報告書の作成・公表に取り組むこととなった三重大学のみなさんとお互いの環境活動や環境報告書について意見交換を行い、その内容も反映しました。

また、県の社会的責任として、RDF貯蔵槽爆発事故、フェロシルト問題及び産業廃棄物不適正処理事案の対応状況やその他の社会的取組についても報告させていただきます。

本報告書をご覧になりました皆様からの率直なご意見やご感想をお待ちしております。

平成18年9月

三重県知事 豊田 昭彦

CONTENTS

目次	知事メッセージ	1
	三重県庁の環境マネジメントシステム	3
	(1) ISO14001適用範囲と環境方針	3
	(2) 職員の環境教育	6
	(3) 環境監査	6
	平成17年度の三重県庁ISO14001の実績と評価	7
	(1) 重点目標の実績と評価	7
	(2) 環境に有益な事業	9
	(3) 環境工夫	14
	(4) 公共工事・施設設備・イベント他	15
	(5) 環境関連法規制等	15
	環境にやさしい三重県庁をめざして	16
	(1) オフィス活動・施設管理	16
	(2) 地球温暖化防止への取組	18
	(3) グリーン購入の取組	19
	(4) 環境に配慮した公共事業	21
	(5) エコイベントシステム	22
	(6) 環境に対する費用と効果	23
	(7) 多様な機関の環境マネジメントシステムの取組	24
	社会的取組の状況	25
	(1) RDF貯蔵槽爆発事故以降の安全性の確保	25
	(2) フェロシルト問題への対応	25
	(3) 産業廃棄物不適正処理事案に関する安全性確認調査	26
	(4) その他の安全性への配慮	26
	(5) 安全性への配慮以外の社会的取組	28
	県民のみなさんとのコミュニケーション	29
	三重大学のみなさんとの意見交換	31
	(1) 三重大学環境報告書に関する意見交換	31
	(2) 三重県環境報告書に関する意見交換	32
	第三者コメント	33
	組織変更のポイント	34
	今後の課題	34
	三重県の庁舎位置図／裏表紙	

みなさん、こんにちは。
“みえこ”です。ホームページ「三重の環境と森林」のマスコットガールです。三重県の環境に関することを紹介しています。環境報告書もこちらでご覧いただけます。
<http://www.eco.pref.mie.jp/>



編集方針

三重県では、事務事業活動に伴う環境負荷の低減、職員の環境マインドの醸成、環境施策の推進等を目的としてISO14001の認証を取得し、継続的環境活動に取り組んでいます。平成17年度におけるこうした取組の結果について、県民のみなさんへお伝えするため「環境報告書」を作成し、公表します。

本報告書は、「環境報告書ガイドライン(2003年度版,環境省)」、「環境報告書の記載事項等の手引き(2005年,環境省)」に基づき作成しています。また、環境報告書への社会的側面の報告を提唱した「GRIサステナビリティ・レポート・ガイドライン2002」も参考にしていますが、県の事務事業活動は、そもそも地域社会への貢献をめざすものであり、民間事業者の社会的貢献とは位置づけが異なりますので、特筆すべき事項を「社会的取組」として紹介しています。

構成は目次のとおりですが、主なものとして、ISO14001に基づく活動結果を「平成17年度の三重県庁ISO14001の実績と評価」において、ISO14001以外の環境活動を「環境にやさしい三重県庁をめざして」において、安全性の観点からの取組については、「社会的取組の状況」において、それぞれご報告しています。また、県民のみなさんとのコミュニケーションや本報告書の作成にあたって行った三重大学との意見交換について紹介し、最後に三重大学 渡邊悦爾副学長からの第三者コメントを掲載しています。

表紙写真▶ 人の営みと雄大な自然が調和してつくり出された文化的景観が評価され世界遺産に登録された熊野古道伊勢路。その中でも写真の馬越峠は、手入れの行き届いた美しい林と端正な石畳で最も人気の高いルートの1つです。これらの素晴らしい自然文化を未来の子どもたちに受け渡していくため、わたしたちは環境活動に取り組みます。